

第44回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年9月9日（木）17：00～18：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

池田 一義	一般社団法人埼玉県商工会議所連合会 会長（WEB 参加）
岡部 信彦	川崎市健康安全研究所 所長（WEB 参加）
金井 忠男	埼玉県医師会 会長
川名 明彦	防衛医科大学校 教授（WEB 参加）
小谷野 和博	埼玉県中小企業団体中央会会長（WEB 参加）
近藤 嘉	日本労働組合総連合会埼玉県連合会会長（WEB 参加）
坂木 晴世	国際医療福祉大学大学院 准教授（WEB 参加）
讚井 將満	自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長（WEB 参加）
竹田 晋浩	かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB 参加）
松田 久美子	埼玉県看護協会 会長
光武 耕太郎	埼玉医科大学国際医療センター 教授（WEB 参加）
三村 喜宏	埼玉県商工会連合会会長（WEB 参加）

4. 県側参加者

大野 元裕	知事
高田 直芳	教育長（WEB 参加）
安藤 宏	危機管理防災部長（WEB 参加）
山崎 達也	福祉部長（WEB 参加）
関本 建二	保健医療部長
星 永進	保健医療部参事
本多 麻夫	保健医療部参事
板東 博之	産業労働部長（WEB 参加）
岸本 剛	衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価について

- 新規陽性者数が減少しているのは良い傾向と言えるが、気の緩みによるリバウンドが懸念されるため、注視する必要がある。（岡部委員）
- 新規陽性者数が急激に減少しているものの、中等症以上の患者は入院期間が長期化することから、医療に対する負荷は一部の医療機関で依然として高い状況にある。（光武委員）
- 感染状況が落ちついている間に、入院調整の仕組みなど第5波で露呈した脆弱な点を見直し、第6波に備えた体制を構築すべきである。（光武委員、坂木委員）

イ 緊急事態措置に基づく協力要請について

- 日本はアメリカや欧州と比べ、とりわけ個人消費等の経済回復力が脆弱であるため、いかに回復させていくかが今後の課題となってくる。その中で、ワクチン接種証明等の活用も1つの案として考えられる。（小谷野委員）
- 新規陽性者数、病床使用率など、状況は若干改善の傾向があるものの、予断は許されない。緊急事態処置の内容を事業者及び県民が遵守することが、感染を抑え込んでいく上で重要である。（三村委員）
- 緊急事態措置に基づく協力要請について異議なし（委員一同）

【県の対応】

- 県内の感染状況及び委員の意見を踏まえ、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言に係る要望についてについて決定した。（9月9日開催 第66回新型コロナウイルス対策本部会議において決定。）

ウ その他

- 最近の様々な論文では、新型コロナウイルス感染症の感染経路は時に空気感染と言える様な感染パターンをとることがコンセンサスとなりつつある。

これから冬に向かって寒くなり、窓を閉め切るなど換気が不十分となることで感染リスクが高まるため、換気等を維持するよう強調していただきたい。

(川名委員)